

豪雪で危機管理強く オーカワパン、生産量をIoTで可視化 アイジーエー、幹部間で発送管理を共有

日本経済新聞 地域経済

2018年2月27日 2:19 [有料会員限定]

福井県を中心とする豪雪被害を教訓に、災害時の対応を見直す企業が広がってきた。物流混乱で生産が滞った福井県のパンメーカーはあらゆるモノがネットにつながるIoTを活用し、災害時に可能な生産量を社内で共有できるシステムの開発を進める。連絡体制や燃料調達の工夫も広がる。今回の事態を想定外で片付けまいと将来の災害への備えを手厚くする。

大雪で最大1500台の車が立ち往生した国道8号と北陸自動車道の間に位置し、本社工場が6日、孤立状態に陥ったオーカワパン（福井県坂井市）。物流混乱と生産減で6日間の出荷停止に追い込まれ、スーパーなど取引先にも混乱が生じた。「有事に備えたシステムの必要性を痛感した」と大川恭史社長は語る。

この教訓を生かし、災害時に手持ちの材料で最大限作れるパンの種類や個数を把握できるシステムの開発に乗り出した。IoT技術を活用し、入荷した材料の種類や量といったデータを同社のシステムに自動送信。社員がパソコンなどで情報を共有し、取引先とスムーズに連絡が取れるようにする。

同社はシステムエンジニアを雇い、AI（人工知能）を使った製造と人員配置の効率化を進めている。降雪中、作ったパンを坂井市役所や自衛隊に配った際に「何をどれだけ作れるかを見える化できれば効率的に

生産ができたはず」との反省から、新たなシステムの開発を決めた。

雪国のイメージが強い北陸であっても2月上旬の豪雪は非常事態で、機械や衣料など幅広い企業に物流混乱や生産停止をもたらした。企業はハードだけでなく、災害の程度に応じた行動指針など、ソフト面の備えの重要性を突きつけられた。

災害時用の特別連絡網を新設したのは婦人服ブランド「アクシーズファム」を展開するアイジーエー（福井県越前市）。通常時は担当者間で発送や受発注の情報をやりとりするが、今回のような災害時には五十嵐昭順社長を含めた幹部間で連絡をとる体制に改めた。

同社は6～7日の2日間、宅配業者やアパレルメーカーとの連絡が混乱し、機能停止に陥った。越前市の物流センターが全国100強ある店舗への在庫補充やネット通販の配送を担っているため、稼働が止まれば影響は全国に広がる。「新作を店舗に届けられない事態はなんとしてでも避けたい」（担当者）と危機管理を強化した。

福井県と隣接する地域で被害を受けた石川県。山代温泉のよろづや観光（石川県加賀市）は約1週間、暖房や温泉に使う重油を補給できず、客室以外の暖房を制限してしのいだ。萬谷正幸会長は「物流の復旧があと1日遅ければ風呂も加熱できなかった」と振り返る。

これまでは重油を月2回補充してきたが、備蓄が逼迫した反省を生かし、今後は降雪予報の程度に応じて早めの補給を心がける。

豪雪で危機管理強く

福井県を中心とする豪雪被害を教訓に、災害時の対応を見直す企業が広がってきた。物流混乱で生産が滞った福井県のパンメーカーはあらゆるモノがネットにつながるIoTを活用し、災害時に可能な生産量を社内でも共有できるシステムの開発を進める。連絡体制や燃料調達の工夫も広がる。今回の事態を想定外で片付けまいと将来の災害への備えを手厚くする。

大雪で最大1500台の車が立ち往生した国道8号と北陸自動車道の間に位置し、本社工場が6日、孤立状態に陥ったオークワパン（福井県坂井市）。物流混乱と生産減で6日間の出荷停止に追

生産量、IoTで可視化 オークワパン ▲ ▼アイジーエー 発送管理、幹部間で共有



この教訓を生かし、災害時に手持ちの材料で最大限作れるパンの種類や個数を把握できるシステムの開発に乗り出した。IoT技術を活用し、入荷した材料の種類や量といったデータを同社のシステムに自動送信。社員

がパソコンなどで情報を共有し、取引先とスムーズに連絡が取れるようにする。同社はシステムエンジニアを雇い、AI（人工知能）を使った製造と人員配置の効率化を進めている。降雪中、作ったパンを坂井市役所や自衛隊

に配った際に「何をどれだけ作れるかを見える化できれば効率的に生産ができたはず」との反省から、新たなシステムの開発を決めた。

雪国のイメージが強い北陸であっても2月上旬の豪雪は非常事態で、機械や衣料など幅広い企業に物流混乱や生産停止をもたらした。企業はハードだけでなく、災害の程度に応じた行動指針を新設した。

など、ソフトウェア、重要さを突

北陸

ウエーブ

ト面の備えのきつけれのは特別連絡網の婦人服ブ

ランド「アクシーズファム」を展開するアイジーエー（福井県越前市）。通常時は担当者間で発送や受発注の情報をやりとりするが、今回のような災害時には五十嵐昭順社長を含めた幹部間で連絡をとる体制に改めた。

同社は6～7日の2日間、宅配業者やアパレルメーカーとの連絡が混乱し、機能停止に陥った。

越前市の物流センターが全国100強ある店舗への在庫補充やネット通販の配送を担っているため、稼働が止まれば影響は全国に広がる。「新作を店舗に届けられない事態はなんとしてでも避けたい」（担当者）と危機管理を強化した。

福井県と隣接する地域で被害を受けた石川県。山代温泉のようつや観光（石川県加賀市）は約1週間、暖房や温泉に使う重油を補給できず、客室以外の暖房を制限してしのいだ。萬谷正幸会長は「物流の復旧があと1日遅ければ風呂も加熱できなかった」と振り返る。

これまでは重油を月2回補充してきたが、備蓄が逼迫した反省を生かし、今後は降雪予報の程度に応じて早めの補給を心がける。